

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あおぞら
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	岐阜県大垣市林町8丁目69
記入者名 (管理者)	荻野 小百合
記入日	平成20年 2月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『その人らしさを大切に』を理念とし、利用者一人一人の個性を尊重したケアを実践している。	ホーム内にグループホームあおぞらの理念を掲示しており、ミーティングやユニット会議においても常にそれを基本とした内容であるように指導している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に運営理念の確認を行うとともに常日ごろ理念でもある一人一人の個性を尊重したケアであるかどうかの検討をするともに、その人らしさを大切にしたいケアとはどういうものなのか、という話し合いやケースの事例を検討している。	各ユニットごとのミーティング時や、ユニット会議においてまた、サービス担当者会議において理念をもとにしたケアであるか、問題はないか等話し合い実践している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議や家族の面会訪問などでグループホームとはどういう場所で何を目的とした場所であるか説明している。また、地域の学校と触れ合う機会を設け、理解してもらえるように時間が許す限り訪問や、体験して頂いたりしている。	運営推進会議の開催や地域の学校の生徒さんや先生の訪問、体験を通してグループホームというものを理解して頂いている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に近所の方とお会いすればきちんとした対応で挨拶をしている。また、畑活動を通して近くの畑作業をして見える方などとも交流を図っている。	畑活動や、散歩などでお会いしたときにグループホームあおぞらですときちんとした対応で挨拶ができるよう指導しているのと、また同時にグループホームの説明ができるよう教育している。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1度の運営推進会議などで地域の自治会長様や民生委員様に参加頂き、季節の町内の行事などの報告を受け、またそれに参加する旨を了承頂いた上で盆踊りやお祭りなどに参加している。	夏の盆踊りまた、クリスマス会、老人会主催の講演会などへ参加している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアの方が訪問される時に地域の方にもお声をかけている。また、地域の介護職を希望されている生徒さんたちにホームを開放し、職場体験的なことをして「介護とはどんなことか」ということを交えて高齢者の方と触れ合っていたくことによりお互いよい刺激となるよう取り組んでいる。		地域の生徒さんの職場体験、またボランティアの方が見えるときにホームを開放し地域の高齢者の方にも楽しんで頂けるよう取り組んでいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	Mgrミーティングやユニット会議を行いその中で自己評価する機会を設けたりまた、外部評価を実施する意義を説明及びその評価に対しての話し合いをしている。		改善が必要な場合、会議等で職員の意見を具体的に取入れながら改善の方針をたてホーム全体でそれを実践できるよう取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議で家族へグループホームの役割の説明及びサービスの説明を行い利用者の家族等より頂いた意見が反映されるよう取り組んでいる。		担当者会議やMgr会議で意見をまとめ検討しよりよいサービス向上につながるよう取り組んでいる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ定期的に、運営上の疑問や問題等の相談に伺ったり、また時間が許す限りグループホームの方へお越しいただけるよう依頼している。		運営推進会議を通して市町村の担当者へグループホームの方へ足を運んで頂けるよう依頼すると共に、こちらからは相談等で市役所へ伺うあおぞらのサービスの質が向上するように努めている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者さんを通じ、また後見人として権利擁護している方を通して、それらはどういうものなのか、また、個々の必要性について話し合っている。		成年後見人を通して、権利擁護とはどういうもので個人が組織に対してどのように対応した、組織である私たちはどのように対応するべきかを話し合い、時にはお話を伺いそれを職員へ説明した上で活用できるよう支援している。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の会議や研修を通して高齢者の虐待がないように努めている。また、虐待とは何かを考える機会を作り自らが虐待の意味を認識できるようにしている。		万が一虐待を発見した場合や不審に思う点があればすぐに管理者へ報告することを義務づけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所を希望される方には事前に面接を行いグループホームの役割やどういう所であるかの説明をし、疑問に思うことがあればいつでも尋ねられる旨を説明し、同意して頂けるのであれば契約書にサインをして頂いている。また、退所時には退所の際しての不安等があれば相談させて頂きたい退所後もその人らしい生活ができるよう支援している。</p>	<p>納得・同意をしていただいた場合、各契約書類に署名・捺印を頂いている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員には利用者と積極的に話しをする機会をつくるよう指導し、また、外部から見えた方との居室にて個別に話しができるように配慮している。また、意見等があった場合日誌に書くようにし、必要があればその都度またはミーティング時に連絡できる体制を作っている。</p>	<p>管理者やMgrに直接申し入れをすることもでき、管理者やサービス作成責任者がミーティング時に提案したり、またサービス計画書に取り入れれたり意見等が反映されるようにしている。そして改善が必要な場合はすぐに改善できるような体制をとっている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員の異動等においては利用者の家族等には文章でその都度報告するとともに、運営推進会議で家族の方には自分のご家族の利用者様の状態をお伝えしている。また、電話や運営推進会議以外での訪問時に必ず職員が状態を報告している。</p>	<p>サービス計画書へ利用者のご家族の方から署名をいただく時には3ヶ月ないしは2ヶ月間の利用者様の状態を口頭でお伝えし、その結果のサービス計画書である旨を説明し、署名・捺印を頂いている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議時やサービス計画書への署名・捺印時に利用者のご家族より意見等があればお話いただけるようお願いしている。</p>	<p>仮にホームの職員や管理者直接言いにくい場合は市役所の方に直接意見を述べて頂けることを説明している。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング時に意見を発言する機会を設けている。また、皆の前で言いにくい時には業務中の空いた時間に管理者へ直接言えるよう管理者は話しやすい状況を常に心がけている。</p>	<p>管理者は職員が意見や提案を言いやすいよう常に職員に声をかけ出来る限り個別に話ができるような雰囲気作りを心がけている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月の初めに大体の予定を立て、職員の確保ができるよう調整している。</p>	<p>月の初めに立てた予定が滞りなく実践されるよう2週間ごとにシフトを調整し職員の確保を図っている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットごとに職員を固定し、利用者様に馴染んだ職員がお世話できるよう配慮している。ユニット間での職員の異動は原則行っていない。</p>	<p>これからもユニット間での職員の異動は原則考えておらず、固定で運営していく方針である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内があればその都度職員には伝え周知できるようにしている。また、なるべく参加できるものには参加を促し、研修のあとには研修レポートを提出してもらい、管理者と個別に話しをする機会を設けている。</p>	<p>研修で学んだことがどうグループホームにどう活用できるかを考える機会を与え、ただ研修を受けただけで終わらないよう自分なりに実践できるようサポートしている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修で知り合いになった同業者等と必要があれば連絡をとり合い相互間でよりよい環境ができるよう相談等を行っている。</p>	<p>サービスの質が向上するよう、よりよいものを作っていけるよう同業他社の方々より相談、援助を受けている。また、同じ会社のケアマネージャーなどにも助言いただいている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は常に職員に変わった様子はないかを心に留め職員と接するようにしている。また、職員が息抜きができる環境作りとして食事をセッティングして参加を促したりしている。</p>	<p>福利厚生の一環として食事をセッティングしたりしながら、職場の外での交流も図りながらよりよい環境作りに取り組んでいる。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の努力や功績の跡が見られた場合は皆の前で称え、他の職員にも良い影響が浸透するよう工夫している。</p>	<p>ミーティング時に各職員の様子を伝え合い、良い点はほとんど皆に広まるよう、また一人一人の職員の良い箇所が伸ばせるようにしている。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居する前に利用者とその家族と面接を行わずには介護に対する不安やホームに入居するに当たっての不安を受容し、それに対して一つ一つ問題を解決できるよう話している。また、グループホームとはどういう所で何をして生活するのかを本人に直接説明している。</p>	<p>利用者様がグループホームに入居された場合、どのような生活を送り、ホームの役割、家族の役割、職員の役割、利用者様本人の役割を直接本人と話をしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居をお考えの利用者と利用者の家族等と最初に面接をする際に今の介護の現状や、これからどうしたいかなどの相談を受けている。</p>	<p>グループホームではどのような暮らしを望んでいてそれが可能かどうかも見極めつつ、ご家族の方とは話し合いをし、同意の上で利用してもらえるようにしている。また同意していただいた上での契約としている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で可能な限り在宅での生活も視野にいれながら、グループホームでの生活が必要かどうかを専門的見解で判断している。		医療が必要な場合や、自宅でヘルパー等を利用しながら生活ができそうであれば、すぐ入居するのではなくいろいろな方法を提案させて頂き、あくまで利用者とその家族の方に選択決定をして頂いている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様に環境の変化のダメージが最小限になるよう家族と相談しながら、お試し期間として一泊ないしは2泊して様子みることも提案している。また、見学の際少しの時間をグループホームで過ごして頂いて少しでも雰囲気がわかってもらえるよう努力している。		利用者様やその家族の要望があれば、いつでも外泊が出来るシステムにしている。また、面会等も昼夜問わずいつでも面会に来ていただける旨を契約時に説明している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さまがグループホームにおいてしっかりとした役割をもって生活できるよう工夫している。		利用者様の個々の分野にあわせて 畑仕事から台所関係の仕事、また洗濯、掃除等それぞれが役割をもってあくまでも共同生活をしているという気持ちで生活していただけるよう常に努力している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	初回面接、入居手続き、運営推進会議等の際にグループホームでの介護について何度も説明し理解をもとめている。個々の家族により、協力体制は異なるが来所回数を増やしていただく努力をしている。		利用者の私物が破損した際にもできるだけ廃棄せずに修復し使用してもらう配慮に努力したい。家族も含めホームの社会生活の充実させたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	楽しい落ち着いた生活をするにより精神的な余裕をもってもらい家族を含め他の利用者に対する理解をうながしている。家族に対しても利用者の思いや個性、認知症状を理解していただき より良い対応により良い関係づくりをめざしている。		ホーム職員と家族のコミュニケーションのとりかたを考えていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	落ち着いた状況で職員の促しにより生活暦を中心にお話をし思い出話をケアに活かしている。		思いの理解により利用者との信頼関係づくりに活かしたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が施設の共同生活に参加し、利用者間の架け橋になれるよう支援している。トラブルの際は共同作業、リクリエーション等を利用し、又話し合いをし関係修復のきっかけづくりに心がける。共同生活により他の利用者の世話をしていただき感謝のよるこびを感じていただける支援をしている。		時間の必要な場合もねばり強く支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	積極的とはいえないが、退所後も相談や関係の維持を促している。		関係の距離感を配慮し再入所等を考慮していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護職の専門技術により表情、態度、を中心に様々なケアに対する反応、個別相談により本人の理解の範囲を考慮し支援に努めている。		職員の感じた印象も大切なケアの指針に取り入れていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護日誌より支援経過記録を作成し、ユニット会議や日誌により個別に状況に把握、支援の方向性の確認をしている。		ユニット会議の他に職員同士の連絡事項の充実を努力したい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の利用者の行動、発言、他者との関わりを観察により心身状況を把握しケアに活かしている。		繊細な心情の変化の観察力を向上させたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議やユニット会議の開催により各々の立場、考え方、思いにより利用者の生活意欲の向上症状の安定、環境づくりをつくりあげる努力に努めている。		詳細な内容にいたるまでプランにあげていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に対し過剰、早急すぎる対応の変化に配慮し、時間をとり様子を見る支援も心がけている。症状により家族の協力が必要な場合はすみやかに連絡し協力できる関係に努めている。		家族や他の関係者との協力関係を充実させたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回担当者会議を開催し、個別に状況に把握、支援の方向性の確認をしている。また、日常的にサービス計画書に取り入れるべき事柄はその都度管理者へ報告するようにしている。		原因の不明な症状や行動に対し会議を行い利用者の思いに近づいた支援の方法を見つけていく努力をしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	金銭的な配慮、食事や外出の機会を増やし限られた状況の中で主体的に生活が送れるよう努力している。		より地域性を生かし社会と関わりが持てるよう支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域で老人や子供を支援する為ボランティアによるレクリエーション、又付近の小学校の「こども110」への協力、高校生の受け入れ 等地域と話し合いを持ち協力体制作りに勤めている。		ボランティアによるレクリエーションや地域への貢献に取り組んでいる。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外の主に医療サービスの充実を目的とし不慮の事故の際にお願いできる医療機関との連携に勤めている。		様々な状況に合ったサービスの選択ができるようにしている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の開催時に地域包括支援センターの職員を招き、その都度グループホームのあり方、認知症の利用者に対するケアの方針についてお話をさせて頂いている。		運営推進会議の時等に当グループホームについてお話をさせて頂き理解を頂き、意見いただいている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、職員によるバイタルチェック、週1回看護師によるバイタルチェック、定期健診を行いながら本人と相談をし症状の軽減に努めている。Dr.と月2回会議を開催しその後個別に診察をうけている。		体力の低下を防止する日常生活の中で取り入れられる機能訓練的な指導を受けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に一度Drとの会議と行き、2週間に一度グループホームの入居者全員が往診を受けられるようにしている。Drと会話することによって利用者様が安心して生活が出来るよう、またDrは少しの異変にもすぐ対応できるように定期的に往診を行ってもらっている。職員に対してもDrから注意点を頂いたり、また相談にのって頂いている。		2週間に一度のDrとの会議において入居者全員の様子を話し合い、特に気になる点や行動について専門的意見を頂いている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週土曜日に看護師によるバイタルチェックを行い、その際に日常の気になる行動や食事について等相談をしている。		バイタルチェックを行いながら看護師と話し、バイタルの結果を踏まえながら個別に入浴に際して気をつける等の指導をして頂いている。また、利用者様の最近の様子を話し、専門的見解より意見を聞き支援して頂いている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院にむけて、病院側の職員より話を聞きに行っている。(お見舞いの際)そして、退院時には支障なくホームの生活にもどれるようサマリーを頂戴し、それを参考にしました同じ生活に戻って頂けるようにしている。		入院の際利用者様に負担にならないようホーム側として出来る限りの事は家族と相談しながら行っている。また、病院側より頂くサマリー等から日常生活に戻れるよう、リハビリを行ったり、認知症が極度に進行しないよう注意を払い支援している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで終末期のケアを希望される家族の方とは書面にて方針を確認し、納得頂いた時点で署名・捺印を頂いている。またDrとは2週間に一度の会議において、終末期のケアについて、どのようなケアが必要かを指導頂いている。		終末期のケアについて職員全員が共有できるよう話し合いのトピックにあげている。また、様々な意見がある中、当グループホームは主治医のDrに基づいて、ケアしていく方針であることを確認している。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームとしての役割、家族の役割、医療専門の分野それぞれが出来ることをつなげてケアができるようにしている。また、職員にもそれを理解してもらえるよう会議等において話題に取り上げ話し合いをしている。		実際に終末期をグループホームで過ごされた方が過去にはないが、今後そういった利用者様が見えてもケアがしっかり出来るよう会議で取り上げるなり、Drと話をするなり等して備えている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設等へ移る場合、こちらからは家族には利用者様の生活についてお話をさせていただくと同時に移る側の施設等には退所サマリーを記入し日常の様子や薬の件、特に注意して頂きたいこと等を記入し、家族にお渡ししている。		退所サマリーを記入し移る側の施設等へお渡ししている。また、ご自分の家へ帰られる方には、退去した後でもいつでもホームの方へお越しいただける旨を説明し実際に退去後にホームへ遊びに来られ、昼食を共に召し上がって頂いたりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	男性、女性、入所までの生活歴、面接時の印象、家族からのアドバイスによる対応、言葉遣いを考え序々に打ち解けた関係をつくる努力をしている。 記録に関しては常に尊厳に配慮した記録を徹底している。	職員は利用者様に対して尊厳を損なうような言葉遣いや態度がないよう管理者は注意を払い、そのような職員が見られた場合は、個別に注意をしている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事やリクリエーション、外出時を中心に利用者の思いや希望がかない意欲的に生活できるよう努力している。 帰宅願望、徘徊、物盗られのような感情に関しては時間をかけて思いを聞き、又 外出を見守っている。	利用者様の希望が出来る限りかなうよう職員は注意を払い耳を傾け、利用者様の希望を取り入れ、献立を決めたり、また外出したり、自己決定できる生活ができるよう支援している。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の生活のペースを理解しつつ共同生活の楽しみや協調性の理解を促すよう努めている。	希望や自己主張の少ない利用者の思いの理解に努めつつ、観察しながら利用者の気持ちを察しケアしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の身だしなみに気をつけ、特に外出時等のイベントの際を自尊心を保てるよう努めている。 又 定期的に化粧のボランティアを受け入れおしゃれを楽しんで頂いている。また、本人の希望を取り入れ化粧品を買いに出かけたり、馴染みの美容院へ定期的に行って頂いている。	福祉の理解のあるお店をより多く増やす努力をしたい。 その中で利用者の選択を促す支援につなげたい。そのために様々な店へ挑戦し、徐々にではあるが、理解を深めて頂いている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の担当者をつくり量や好みに配慮した食事内容、誕生日などのイベントの際の料理の工夫をしている。 食事の準備や後片付けにいたるまで個々の作業をしてもらいながら その内容の拡大を図っている。	出来る限り利用者様のリクエストにお答えし、且つ栄養面においても注意を払っている。また、食事は可能な限り利用者さまに後片付けまでお手伝い頂いている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の好み理解し、偏りすぎないよう配慮し楽しんでいただいている。 特に男性はお酒、女性は甘味類等。	節度を保った嗜好品の楽しみ方に配慮し偏食に偏らないよう気をつけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の際の声かけの際に自尊心に配慮した方法をとっている。睡眠の障害にならない程度に尿意を生かしたケアに努力している。		排泄に関してはアセスメントを行い、オムツ離れが出来るよう試みている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に配慮し入浴回数を増やすようにしている。又 入浴を拒否される利用者はその思いまた方法について原因を本人と話し合いながら入浴を促している。		入浴方法や入浴そのものの理解ができない利用者への配慮のあるケアを検討したい。また、入浴に際しては希望があれば朝、でも夜でも1日2回でも、希望通りに入浴して頂けるようにしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の居室やリビング、ソファ等自由に行き来できるようにし、安全を保てる範囲で好きな場所、時間に休息がとれるように努めている。		限られた施設のなかで利用者同士のトラブルに配慮しながら自由な生活をしてもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「できること」の理解、開発により責任感を感じることができる役割を促している。物づくりや他の利用者の世話など満足感や達成感の得られる内容の検討をしている。		利用者の選択枝の拡大を図っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時のお小遣い、生活に必要な買い物の選定などを相談しながら購入している。お小遣いに関しては毎月清算し家族に報告し補充している。		自分で金銭を管理できる方には利用者様本人に幾らかをお渡しして管理していただいている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日では無いが天候、体調に配慮し希望にそって散歩等の支援をしている。また、車に乗って出かけたり、にぎやかな場所から自然のある場所様々な場所へ出かけている。		近隣のスーパーや大型店へ出向いている。そこでまた新しい刺激になるような買い物や物を見てよい刺激になるよう支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	懐かしい心情になれるような場所、又 最近の時代ならではの施設に出かけ食事や見学の機会を計画、実行している。また、先祖のお墓参りに出かけたり、近くの神社等へお参りに出かけたりしている。		お盆やお彼岸の時期などに家族とも話し合い、お墓参りに個別に出向いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人等への電話の支援、ハガキ・手紙等は管理者が直接本人に手渡しでお渡ししている。		電話や手紙等の通信の制限は基本的になく、電話等、本人が自力でかけることが困難であれば、職員が支援し、お話できるようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者により様々な対応になるが、家族を中心に施設訪問を推進している。その際は職員も状況の説明や相談と信頼関係を築いている。基本的には誰もが気軽に尋ねて頂ける様にしている。		遠方からも利用者様の親戚や友人がホームへ訪ねてみえ、昼食やおやつ一緒に召し上がっていただき、必要であればそれらを居室に運んだりして、居心地がよくなるよう工夫している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うよりも動機付けや不穏になる原因追求に重点を置き、健やかに暮らして頂けるようアプローチしていく指導をしている。		全ての職員が身体拘束の基礎知識を身につけ、身体拘束がないようにしている。定期的に運営者がグループホーム内の様子を観察し、それらしき事がないかをチェックしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様本人や、そのご家族から申し出があった場合のみ、居室に鍵をつけている。基本的には鍵をかけないケアをしている。		鍵の設置は利用者本人の希望、家族の希望を基本として設置している。また、やむを得ず設置する場合は家族に連絡し了承を頂いている。(口頭)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様が居室におられる時は時々様子を伺いながら、見守りをしている。夜間は夜勤者が定期的にホームを巡回し、異変がないかを見ている。		利用者様のプライバシーが侵害されないよう、十分に配慮し見守り等を行っている。具体的にはドアを少しだけあけて様子を伺ったり、洗濯物を持っていく用事をつかったり、あくまでさりげなく行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なものについては、職員が注意を払い、なくすのではなく正しい使い方ができるように見守り、また就寝時には所定の場所に保管することによって事故が起きないように細心の注意を払っている。		認知症の方で料理ができたり、はさみなど使用して切り絵等の作業ができるようにしている。また、薬品関係のものについては棚の上に収納したり、職員が見守りを行うなど工夫をして、危険物だからといって排除することはしていない。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、ヒヤリ・ハット記録を作成し、事故のリスクを話し合い、また、事故が実際に起きてしまった場合を想定し、どのような対処が必要で何をすべきかを理解できるようにしている。		管理者は防火管理者講習を受け、ホームで万が一火災が発生した場合、どのような役割をもって行動するかを職員に周知させている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故発生に対して、職員全員が心配蘇生法、人工呼吸を学ぶ機会を設け、また、資料等を配布し、繰り返し知識を学べるようにしている。		急変・事故発生時にはとにかく冷静に判断ができあわず、必要であればすぐに救急車を呼び、利用者の気道確保・心配蘇生を行うよう繰り返し、職員には周知させている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行い、利用者と職員が安全に非難できるよう指導している。		避難訓練の際に利用者様の身体的な能力に合った非難方法を考え非難訓練を行っている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の訪問時や運営推進会議や支払いの時等、利用者様のご家族とお会いする機会がある時、利用者様の様子を伝える中で昔の話を聞いたり、昔の興味のある事柄の話を伺ったりしてケアに生かしている。		リスクの高い利用者さまには家族にきちんと説明し、納得頂き、生活していただけるようにしている。また、出来る限り自由に暮らせるよう工夫をし、職員には利用者様の行動に対してすぐに口出ししないよう、まずは見守るよう指導している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別に介護日誌を記載し症状の異変について職員が共有できるよう努めている。 対応については症状によりすみやかに医療機関に連絡し対処できるようにしている。		予測できる内容についてはあらかじめ会議等を開き対応についての準備を常に行っている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめてファイリングしており、個々の使用している薬の注意点等を共有且つ理解し事故のないようにしている。		日誌に服薬の状況を記入するとともに、ホワイトボードに記入したり、分かりやすいように管理している。また、薬の知識については定期的なミーティング時に学んでいる。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分不足を起こさないよう手軽に水分の摂取ができるよう気を付け、又歩行時間を減らさないよう配慮している。		薬に頼るのではなく、センナ茶の採用、また適度な運動を促したりしている。和食に心がけている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔清掃が自立している方は声かけ、義歯の方はブラッシングと科学洗剤によるケアを行っており、認知度の高い利用者さまにおいては、職員が全介助もしくは利用者様と一緒にやっている。		介助の必要な利用者様においては職員が付き、口腔清掃が行えるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に対しては基本的には自由であり、3度の食事以外にも夜中空腹を訴える利用者様にはおにぎりを差し上げたり、また一人一人の食事の希望にも一つ一つお答えできるよう、時にはリクエストを聞いて献立を立てたりしている。		食材の折込みチラシを見られて 今日これが食べてみたいという利用者様の意見にお答えしてその日の献立を変えたり、皆で食事が楽しめるよう工夫している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルに沿って、特に蔓延の時期等感染防止策をミーティング時に指導している。		汚物を取り扱う時は必ず手袋を着用し、必ず外のゴミ箱へ捨てること、また、手袋は必ず使い捨てとし、また使用した雑巾等も捨てるよう指導している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日ハイター等で消毒を行い、衛生的に器具が使用できるよう配慮している。また、食材は週に2度魚屋さんから新鮮な魚を配達して頂き、鮮度の良い食材で料理が出来るようにしている。		魚屋さんと契約をし、週に2度新鮮な且つ旬な魚を配達してもらっている。旬な魚を素材とした料理を頂くことによって利用者様本人も季節感が少しでも感じられるようにとの工夫をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	運営推進会議への参加をお願いし、介護に対する理解を家族にも理解し協力していただきホームに来ていただけるよう努めている。 畑の作業や買い物の同行、散髪、医療への通院等をできるだけ近隣の施設を利用し地域の方と密着してケアできるようにしている。		作物等のおすそ分けなどを通じ近所づきあいを進めている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、職員、利用者共同にて掃除をし衛生に努め、自宅のように生活してもらえよう、季節感を味わえる花や木を飾ったり、写真や切り絵等を掲示したり(利用者様作)している。		玄関や居室には季節感が感じられるような花などを飾り、また利用者さまが気持ちよく過ごせるよう、早めに電気を付けるなど、また就寝時には眩しくないよう、テレビの音は適音量で見ていただくなど配慮している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内で自分の居室や、共同スペースに自由に入出入りできるように施錠等はせずに行っている。利用者様本人の希望がある時のみ家族と相談し、鍵を付けさせて頂いている。(外から開錠できる鍵のタイプ)。居室で過ごされる時は巡回を行い見守りを行っている。共同スペースではソファーやテーブルにて気のあったグループで 簡単な作業やお話を楽しめるよ		孤立しがちな利用者や会話の聞き取りが苦手な利用者に対しては職員が参加を促し、出来るだけ参加できるよう配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の私物を施設に受け入れ生活で使用してもらい施設を自分の住まいとして生活していただけるようにしている。		利用者の私物が破損した際にもできるだけ廃棄せずに修復し使用してもらえよう支援している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の設置、暖冷房機の設置、定期的な窓を開けての喚起に努め、また清掃時にハイター等を使用し、不快なおい等が残らないよう、衛生的に生活できるようにしている。		若干の暑さ、寒さを感じてもらい季節感を感じ、又それに合った服装をしてもらえるようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床財の選定、壁や内装を親しみのあるよう工夫している。廊下を利用し、一番奥にトイレがあり出来るだけ日常生活で歩行時間をつくる事が出来るように手すりを設置し工夫している。キッチンやリビングをオープンにし誰もが参加できる環境づくりに努めている。		自分の居室がわかりにくい利用者様に対しては分かり易いようにぬいぐるみをかけたり等分かりやすくなるよう工夫している。また、手すりを設置し少しでも自力で歩けるよう支援するとともに、シルバーカーを利用して歩行できる方には屋内においてもシルバーカーを利用して頂いている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個別に相談し意欲的な作業や得意な作業を職員よりお願いし責任感を感じて習慣になるように努力している。具体的には食事の支度、掃除、点呼、戸締り、他の利用者の世話等。		自主的に参加できない利用者に対し、その人ならではの役割を見出していただけるケアをしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の庭での散歩、みかん狩り、職員と共に施設内の畑づくりを通して作物の栽培、収穫を共同して行っている。また、花木を植えたり、飾ったりして、外へ日向ぼっこしたくなるような環境作りに配慮している。		農作業を通じ生活意欲の活性化を推進している。開放的な環境づくりにより利用者のストレスの軽減に努力している。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームから出る生ゴミから堆肥作りをし、それを肥料とし畑にまき無農薬で、且つ安全な野菜作りをしています。(ほうれん草、にんにく、えんどう等)そういった肥料を使うことによって、大きくそしておいしい野菜ができると共に、環境問題への取り組みをしています。基本的に利用者様のご希望に合わせてお過ごしいただくことが多く、個々の希望としては、お茶のみ友達のような感覚でお茶をのみながら雑談される方が多く、そのようにしているいろいろお話しながら時間を過ごされています。また、職員もその中に入ってお話したり、お話ししながら洗濯をたたむ作業をしたりしています。月に1度は外食をするようにしており、外食することによって自尊心が保てるような支援をしています。また、カラオケが好きな方も多く、カラオケ大会のように皆で歌を歌ったりしています。また、よく近隣のスーパーに出かけます。最近では近くに新しくオープンした大型スーパーへ出向くことが多く、いろいろな店が並ぶので利用者様に楽しんでいただいています。また、塗り絵をしたり、切り絵をしたり「作る」作業もしています。その際には季節にあった塗り絵や切り絵を楽しんでいただいています。また、お台所の作業について、特に女性にはお料理を手伝っていただいたり、メニューによっては仕切って作業をして頂いたり、得意分野が活かされるように取り組んでいます。